

中世の松浦 (68) 鷹島海底遺跡

今年の夏は異常気象と天候不順でしたが、このような中、長崎県教育委員会では昨年度に引き続き、鷹島海底遺跡の床浪地区で遺物の分布調査が実施されました。この調査は、元寇に関する遺物が海底の表面にどのような分布しているのかを潜水して目視による確認を行うものです。

今回の調査は昨年度の調査区に隣接した東側の地点で、8月17日から26日までの10日間行われました。調査は水深約20メートル5メートルの海底に潜り、50メートル×200メートルの調査区内を目視によって調べました。

松浦市も教育委員会文化財課の職員2人が海中における潜水調査技術の習得に努めており、この調査へ参加しています。調査期間中はほとんど雨の中で作業でしたが、107点の遺物を確認することができました。遺物は取り上げずに発見した位置をそれぞれ写真・GPSなどによって記録していきました。その遺物には船の重石あるいは竈の材料として使用されていたと考えられる磚と呼ばれるれんがや褐釉陶器四耳壺など、これまでの鷹島海底遺跡から発見されたものと同様に、当時の中国で制作された遺物がほとんどでした。

また、琉球大学の池田教授を中心とする研究チームは、6月に実施された海底探査の分析結果をもとに、9月18日から10月2日まで国史跡鷹島神崎遺跡周辺3カ所の9地点で突き棒による調査が予定されています。この調査結果をもとに試掘調査も予定されており、松浦市も積極的に参加します。新たな船の発見につながればと思います。



▲調査の様子

あなたの健康お手伝いします

すこやか
けんが

ことばの発達

○問合せ先 子育て・こども課子育て支援係 ☎内線 146、167

子どもの言葉がなかなか出ない、ほかの子どもと比べてしゃべるのが遅い…など「話せる言葉」で悩まれる人も多いのではないのでしょうか。

言葉の発達には、「分かるのが先で、言えるのは後」という原則があります。まずは経験や体験を通して分かる言葉を増やすことが大切です。

関わり方の基本は

- ①お世話をしながら声をかける
- ②子どもの働きかけに敏感に反応する
- ③子どもの興味に親が合わせる

赤ちゃんが「アー」と声を出し、お父さんやお母さんが「なあに」と答える。自分が働きかけると注目してくれるということを通して、赤ちゃんは親が自分に興味を持っていることを知る。この関わりこそが言葉の発達の基礎です。

また、「これは花よ、りんごよ」など大人が選んだものの名前を教えるより、子どもが注意を向けているもの

の名前を言ってあげたほうが、はるかによく言葉を覚えます。まずは普段の生活の中で、子どもの視線がどこを向いているのか、何に興味があるのかを観察して声を掛けてみましょう。

言葉の発達は、個人差が大きいものです。親の関わりや環境の影響も大きく、特に、テレビやビデオの長時間視聴は言葉の発達が遅れる原因と言われています。長時間ただ見せっぱなしにするのではなく、「何が出てきたの?」「お歌を歌っているね」など声掛けしながら上手に活用しましょう。

親は「はっきり上手にお話して欲しい」と思うものですが、幼児の耳は聞き取りの機能もまだ未熟なので、話しかける大人自身が、ゆっくり・はっきり話し、子どもの分かる言葉、言える言葉を増やしていきましょう。



A Brief Introduction to the JET Program - JET プログラムとは -



ティーガン・スコット
Tegan Scott
オーストラリア出身

日本でよく「どうして松浦に来ることを選んだのですか?」という質問を受けます。答えは、「私が松浦を選んだのではなく、JET プログラムによって松浦に配属になりました。」です。

JET プログラムとは何でしょう。多くの方は、ALT のことは知っていますが、どうしてその自治体に来たのかはあまり知られていないようです。だから、今回は、JET プログラムについて、簡単に説明をしたいと思います。

JET プログラムは "The Japan Exchange and Teaching Programme(語学指導等を行う外国青年招致事業)" の略称で、総務省、外務省、文部科学省および財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) の協力の下、地方公共団体が実施している事業です。昭和 62 年に開始されたので、今年で 27 年になります。

JET プログラムは 9 月に募集が始まり、申し込む場合は自国で申し込まなければなりません。試験は、筆記試験と面接があります。ALT になるためには、教師の経験

や日本語の能力は関係ありません。合否の結果は、翌年の 4 月に分かります。そして、日本のどこに配属されるかは、5 月または 6 月にならないと分かりません。新しい ALT が到着するのは、7 月下旬または 8 月初旬です。

JET プログラムは、大規模な人材派遣会社のようなものです。合格者は配属先の希望を提出しますが、最終的には CLAIR が配属先を決めます。

現在、40 カ国から 4,372 人が JET プログラムに参加しています。その中で松浦市にいるのが私たち 5 人です。

私はこの ALT の仕事が好きです。これからも松浦の子どもたちが楽しく英語を学べるように、できる限りのお手伝いをしていきたいと思っています。



▲ 松浦市で英語を教えている ALT の 5 人です



図書館の おすすめ本

市立図書館
☎ 0956 - 72 - 4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索



『幕末まらそん侍』

土橋章宏 / 著 角川春樹事務所

安政 2 年 (1855 年) 安中藩主は、藩士の心身鍛錬を目的として、約 30 キロの中山道を走らせました。これが日本のマラソンのはじめです。ライバルとの対決に燃える男、脱藩を企てる男などが駆け抜ける、痛快スポーツ時代小説です。



『こけしのゆめ』

チャンキー松本 / さく
いぬんこ / え 学研教育出版

「しけこ」と「こけみ」は、昔ながらのみやげ屋で売れ残ったこけしの姉妹。姉妹の楽しみは、道ゆく人々の夢をのぞき見ることです。空を飛んだり、歌ったり、誰一人として退屈な夢なんてないと分かります。こけし色たっぷりのこけし絵本です。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



調川町下免の村田友美さんと由羽ちゃん (2 歳) と一真くん (4 歳)

【お気に入りの本】

『おつきさまこんばんは』 林 明子 / さく 福音館書店

『のりもの運転席ずかん』 松本典久 / ぶん 井上広和 / しゃしん 小峰書店

【お母さんからひとこと】

図書館に入ると、いつも抱えきれない程の絵本を探し、机に持ってきて熱心に読んでいた長男。最近では、自分で貸し借りも楽しめるようになりました。妹は、おはなしの部屋が大好きで、布絵本を見たりマスコットあそびをしたりと探索に忙しいです。母親の私も、つい本探しに没頭してしまうくらい、安心して利用できる図書館です。これからも、たくさん利用させていただき、二人のお気に入りの本がもっと増えるといいなと思っています。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしております!